

大嶺村跡発掘調査 現地説明会

沖縄県立埋蔵文化財センター

この事業について

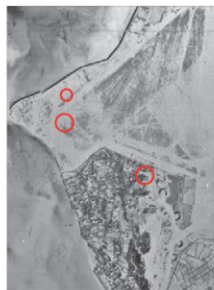
今回の発掘調査は、那覇空港拡張工事に伴う那覇空港事務所管制塔庁舎新築工事等に先立ち、建設予定箇所に存在する埋蔵文化財の発掘調査を行うものです。那覇市文化財課が事前に行った試掘調査によって、この場所には戦前まで存在していた大嶺村の痕跡が確認されています。

大嶺村とは

近世 大嶺村の記録は、『琉球国由来記』巻十二（1713年）の大嶺村の御座、土地公（土帝君）、年中祭祀についての記載が初出です。また『中山傳信録』（1721年）には、筆者の徐葆光が見た大嶺村の景観が記載されています。

近代 明治40（1907）年の島嶼町村制発布で、小嶺間切大嶺村から小嶺村字大嶺となります。その後、昭和6年より旧日本軍小嶺飛行場の建設が決定し、同8年に建設されました。昭和17年からは戦争の激化に伴って、たびたび拡張工事が行われました。

戦後 戦後は米国民政府管理の那覇飛行場、本土復帰後は那覇空港として利用され、現在に至っています。



発掘調査箇所（左：現在 右：昭和20（1945）年1月）※○が調査箇所

発見された遺構
～エプロン地区～



集石遺構



かまど跡?



遺物廃棄土坑



井戸1



井戸?



井戸2

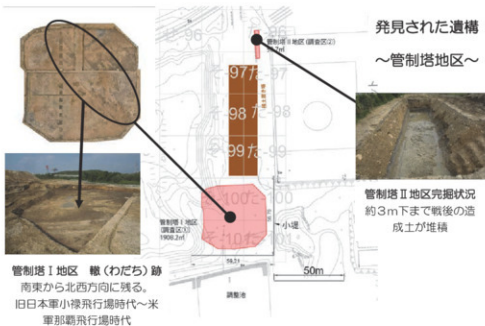


轍(わだち)跡



石組遺構

大嶺村の頃の様々な遺構が発見されました。また、集石遺構や一部のピットはさらに古い時代のものである可能性があります。



発見された遺構

～管制塔地区～

管制塔Ⅱ地区発掘状況
約3m下まで戦後の造成土が堆積

管制塔Ⅰ地区 轍(わだち)跡
南東から北西方向に残る。
旧日本軍小隊飛行場時代～米
軍那覇飛行場時代

主な出土遺物



大嶺村跡に関連するとみられる近世・近代の遺物が主体ですが、中には弥生～平安平
行時代の土器(左上)やグ
スク時代の青磁(右上)、
土(左下)、旧日本軍の
銘が刻印された歯
ブラシ(右下)なども
出土しています。

大嶺村跡発掘調査 現地説明会

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター
(TEL: 098-835-8752)

共 催 那覇市市民文化財文化財課

協 力 国土交通省大阪航空局那覇空港事務所
沖縄県商工労働部企業立地推進課
有限会社アイガネー